十島村教育委員会だより　令和５年９月号

せわやかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

【感動が人を成長させる！　今という時間を大切に！】

十島村教育長　木　戸　　浩

様々に例えられる“秋”です。「食欲の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」まだまだたくさんの“秋”があります。特に大勢の人に感動を与えるスポーツは今が“旬”のような気がします。ワールドベースボールから始まった大谷翔平選手の活躍は現在進行形です。ワールドカップの大会で，自力でパリオリンピックの出場権を自力で獲得した男子のバスケットボールチーム，そして，同じくワールドカップのラグビーで活躍している選手たち！どの試合を見ていても興奮し，みんなが一つになって声援をおくり，選手たちはその声援に後押しされるように活躍し結果を残してくれました。鳥肌が立つほど感動し，興奮したのは私だけではなかったはずです。もちろん，スポーツばかりでなく，音楽のコンサートや素晴らしい絵画など，人によって感動を受けるものも人それぞれだと思います。

各島でも学校を中心として大勢の島民の方々が参加される運動会や体育大会が実施されることと思います。運動会は競争ですが，楽しくなければなりません。子どもたちは，この日のために応援団長を決めたり，様々な練習を重ねたりしてきました。いわば「晴れ舞台」です。人数が少ない分出番も多く，一人一人が主役の運動会です。１等賞を取った子だけでなく最後まで走りきった子や，応援団長としてみんなをまとめ上げた子もその日の主役です。やりきった感，いわゆる達成感が，その子を成長に導いてくれます。多くの島民の方々の声援や拍手が自信となり，自己肯定感となって次へと繋がっていきます。だからこそ“今”を，この瞬間を精一杯頑張って，そして楽しんでほしいと願っています。

最後に「スラムダンク」で有名な湘北高校のバスケット部監督の安西先生の名言を紹介したいと思います。『最後まで・・・希望をすてちゃいかん。あきらめたらそこで試合終了だよ。』結果はどうであれ，その瞬間に全力を尽くし，最後まであきらめない気持ちが自分自身の頑張りを認めてくれる財産になってくれることと思います。

島民の皆様も，様々な“秋”を楽しみつつ，子どもたちの成長に拍手を送っていただけるとありがたいです。

夏の子ども会・青少年育成の行事から

口之島　夕涼み会

夏の思い出として，縁日の楽しさを体験させるために，島全体が一体となって夏祭りを行いました。

中之島　「釣り会」&海岸清掃

自然を守るために何ができるかを，清掃ボランティアによって体感し，故郷の海の幸を釣る体験活動を通して，自然のありがたさを知りました。

諏訪之瀬島　星空観察・花火大会

星が見えやすくなる状況で，夏の星座観察を行い，手持ち花火をみんなで楽しみながら夏の風物詩を味わいました。

平島　地域リサイクル回収活動

リサイクル回収やボランティア活動に参加することで，地域の一員としての自覚を持たせ，児童生徒の健全育成を図りました。

悪石島　慰霊碑清掃活動（対馬丸慰霊祭）

慰霊碑の清掃を行い，慰霊碑が建てられたことの歴史や人々の思いを理解し，「いのちの尊さ」や「平和への願い」について深く考えようとする心を育てました。

小宝島　とからいきいき教室

子どもと大人がみんなで一緒になって，花火を楽しみました。地域が一体となって児童生徒の健全な育成を行いました。

宝島　ファミリー劇場

ジャンベの演奏体験や子どもたちのスチールパン演奏とジャンベ演奏のセッションを披露しました。

【新聞に投稿】※学年は投稿時

令和５年８月１２日　南日本新聞「若い目」掲載）

努力し感謝伝える

小宝島小五年　　前田　　輝

四月七日，小宝島に着きました。始業式，入学式の当日です。波が高く船が港に着かない「抜港」のため，この日になりました。船酔いで，気分もよくありません。

山海留学生九人と新しく赴任される五人の先生方も一緒です。みんな疲れた顔をしていて，あまりしゃべりません。同行していたお父さんに手を振って，ぼくの山海留学生としての小宝島生活がスタートしました。

この島にはお店がありません。けれども自然豊かで，すごくきれいな海があります。学校では一輪車大会，文化祭など，たくさんの行事があります。

学習は少人数なので，分からないところは教えてもらえます。りょうかんさんは優しくて，何も不自由なく，りょう生活ができています。

ぼくはこれからの目標を考えました。それは自然を満きつして大物の魚を釣る，何事も努力する，お世話になった人へ感謝の気持ちを伝えることなどです。

自分でできることをたくさん増やしたいと思います。一年後に家族や友達と再会できるように，小宝島でがんばります。

令和５年７月２３日　南日本新聞「若い目」掲載）

着衣で浮く練習

平島中二年　　金子ひなか

私たちが住む十島村の平島中学校にはプールがないので，水泳学習は海で行います。今年初めての学習は曇っていて，海の水は冷たかったですが，無事に予定通りできました。

今回は着衣水泳を練習しました。着たまま海や川などに落ちたら，どうすればいいか」という課題にしました。

大切なことは「浮いて待つ」ことです。大声を出したり，岸へ向かって泳いだりしても疲れるだけです。とにかく「浮いて待つ」ことが大切だと教わりました。

実際に海に入り，浮く練習をしました。また溺れた役の人の近くに，ペットボトルなど浮く物を投げました。一回一回の学習を大切にして，練習したいです。

（令和５年７月１８日南日本新聞「ひろば」掲載）

うみのなかをみた

悪石島小一年　　まつした　きほ

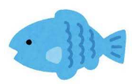
せんせいのおてがみに，みずのなかがみえるといいねとかいてありました。わたしはちょっとしかもぐれないので，ほんとうにみえるかなと，しんぱいでした。

がっこうにプールがないので，わたしはうみでおよぎます。みずのなかがみえたら，あかいさかなやあおいさかなながみえるとおもいます。いっしょにおよいでみたいです。えさもあげたいです。

うみのなかをみるには，かおをみずにつけないといけません。にがてですが，ゴーグルをぎゅっとおさえて，みてみました。

うみのみずは，すこしにごっていました。ちかくにあおときいろのさかながみえました。てのひらくらいのおおきさできもちよさそうにおよいでいました。

つぎのすいえいのじゅぎょうでは，うみのなかをのぞきながらさかなといっしょにおよぎたいです。



十　島　村　で　学　ぶ

【 学び，笑顔，希望にあふれた最後の 】

中之島中３年 小原澤 稔理

とうとう私は中学三年生になりました。これまで私はあまり進路について考えず，勉強にも集中していませんでした。

そんな中，夏休みに建築科がある高校の体験入学に参加しました。なぜなら私の将来の夢が大工だからです。当日は，参加人数の多さに驚きました。「合格したらこれまでと違い，たくさんの人に囲まれて過ごすのか」と想像したら楽しみになりました。体験の内容は，鋸などの道具を使って木を切り，正確に木材をはめ込んだり，パソコンを使って設計図を書いたりしました。様々な方法でものづくりが学べることを知って，とてもワクワクしました。体験入学を通して，「高校に進学したい」という思いが強くなりました。

それにも関わらず，正直夏休みはたくさん遊んでしまいました。海に入ったり，花火を見たり，祖母にモビリティバイクが楽しめる施設に連れて行ってもらったり…。「楽しい」という感情の裏に，常に「不安」な気持ちもまとわりついていました。

私は絶対に高校に合格しなければなりません。それは新たに弟が誕生したからです。たくさんいる弟たちのために，早く自立して，お小遣いをあげるなど，少しでも家族のためになることをしたいと思います。

これからは，勉強はもちろん，最後の学校行事も全力で取り組み，長男として格好いい姿を残したいです。

【小宝島小・中学校からのメッセージ】

教諭　奥　順昭

小宝島小・中学校に赴任し２年目。地域の方々の厚遇により，毎日を生き生きと生活できている。学校生活では，中学校籍の先生方と一緒に働けることは大きな経験である。小中連携を通した小中一貫教育は十島ならではだろう。

今年度は5年生２名，6年生１名の複式学級を担当している。主体的に学習に取り組む力，問題解決能力を育てる複式学級のよさを最大限に活かせるように学習指導法について研修している。行事では，地域の方々とのつながりを強く感じた。運動会，文化祭等の様々な行事に関わり，盛り上げてくださる地域の方々に感謝である。また，地域の調理員さんが栄養のバランスを考えて作ってくださる自校式の給食は毎日の楽しみである。

週に２回の早朝に通船作業のお手伝いをしている。島と本土をつなぎ，物資を運ぶには船が重要なライフラインとなっている。快適な生活のサポートをしてくださる出張員，荷役組合，発電所員の方々に感謝である。

週末は，専ら趣味の釣りである。魚の魚種も豊富でサイズも大きい。週末の楽しみである。地域の方々から情報もいただきながら，釣りを通してコミュニケーションを深められることもよい。また，週１回のバレーボールは体力維持，健康維持にはとてもよい。ここでも地域の方々とのコミュニケーションを深めるいい機会となっている。これからもいろいろな経験を通して，ここ小宝島を楽しみたい。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

先生方と各島の学校や暮らしについて，情報交換できることを楽しみにしています。

釣りの話が多いですが　。(笑)